

平和のための戦争資料展

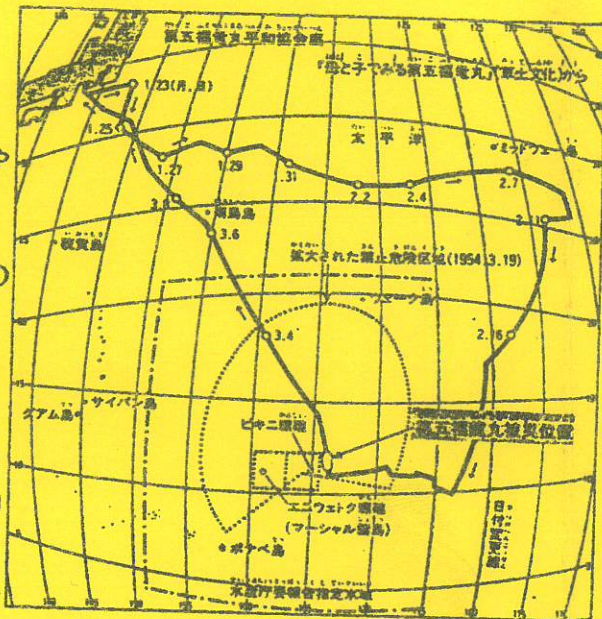


第五福竜丸ってしってますか?

1954年3月1日、日本人の大好きなマグロをとりに行った船が、太平洋のビキニ島おきで水素ばくだんの実験をしていた近くをとおりかかって、ほうしゃのうをたくさんあびてしまいました。船に乗っていた人たちはみんな病気になり、久保山愛吉さんという人は、なくなりました。あとでわかったところでは、このときの水爆は、広島におとされた原爆の1000ばいじょうの力を持つばくだんだった。

会場にかかっている第五福竜丸のかべかけは、品川区の高校生が「わたしたちも平和のためになにかしたい」と思ってつくったものです。ひとり10センチずつの四角形を360人で1まいずつあみしました。1まい1まいに平和へのねがいがこめられています。

第五福竜丸が死の灰をあびたところ



武蔵小山商店街と戦争

大きなアーケードで有名な武蔵小山商店街ってしていますか? この商店街の人たちは戦争で仕事ができなくなって、今の中国の東北地方(満州)へ商店街の人たちみんなで引っこして、土地をたがやして新しい村を作ろうとしたのです。

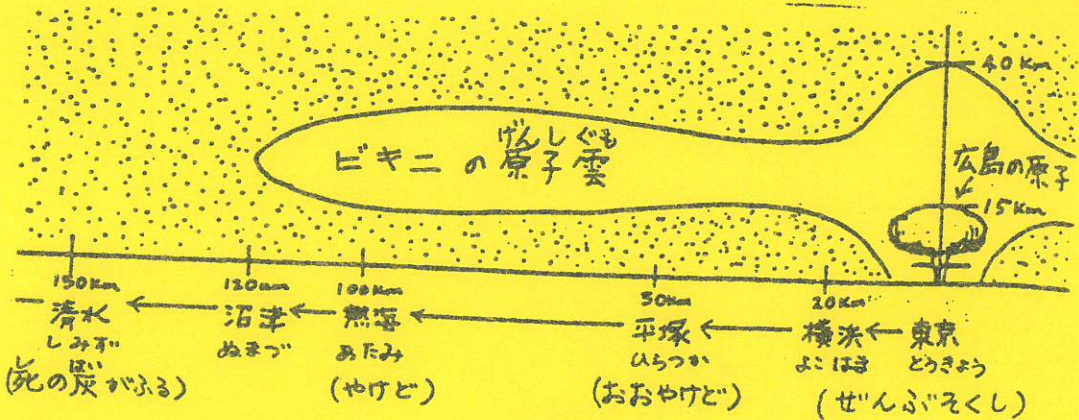
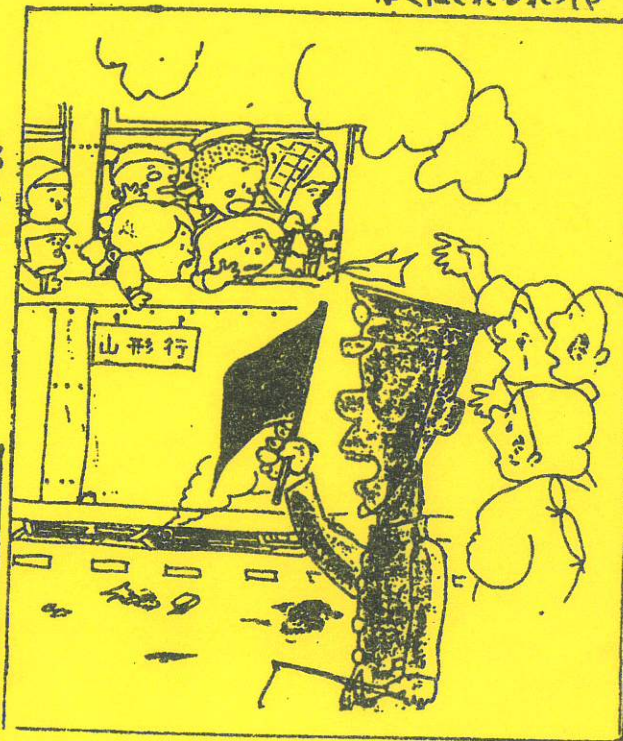
でも、戦争がおわって帰ってきたのはほんのわずかな人だけでした。たくさんのおとなやこどもが、しんでしまったのです。どうして、こんなことになったのでしょうか。



ぼくはされるれっや

学童疎開

戦争がはげしくなると、東京などの大都市では、「そかい」といって小学生が家からはなれて、いなかへ行ってくらしました。そのころのこどもたちの絵や、作文が、たくさんあります。そのころのこどもたちのくらしのようすを考えながらよくみてください。



こわい核の事故

今、地球上にはおよそ5万ばつもの核があるといわれています。全人類を何回も全滅させられる量です。核兵器をつんだ船がちんぼつしたり、じこで核ばくはつがおこったりするきけんがわたしたちのまわりにあります。

